

【評価実施概要】

事業所番号	0170501324		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	グループホーム ちょうちょうの家		
所在地	札幌市南区川沿12条2丁目2番23号 (電話) 011-578-5561		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】 (平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年10月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円		
その他の経費(月額)	・光熱水費 15,000円 ・暖房費6,000円(11月~3月)		
敷金	有()円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 月額 43,000 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 86.1歳	最低 78歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛全病院 クリニックあい
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の職員寮であった建物を再利用したグループホームである。各居室はゆったりとして台所、浴室(利用はしていない)、トイレが設置されプライバシーが守られている。室内は段差があったり階段利用の造りであるが、むしろ自立歩行が自発的になされて機能訓練になって外出時に活かされ、転倒予防につながっている。地域との連携が良好で、地域のサロンに気軽に参加し、職員共々交流が深まり、利用者の楽しみとなっている。医療面では毎週の看護師の来訪、更に隔週のかかりつけ医師の往診が利用者と家族の安心に繋がっている。利用者と職員は全員女性で趣味活動など共通のメリットがある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者の権利、義務の明示は改善されて重要事項説明書に分かりやすく記載されている。ホーム機能の地域への還元については、運営推進会議を通して町内会役員との関わりから交流があり、地域の理解が深まりつつあり良好な関係が構築されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で取り組み、課題を話し合い共有し継続的に検討している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3~4ヶ月に1度開催し、町内会の役員が出席している。内容は回を重ねる毎に充実し、地域との連携が深まりつつある。地域の催し物の情報が得られて、利用者が定期的に参加できる場が与えられ外出の機会が増え、職員共々楽しみ場になっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりは「ホームだより」を発行し、家族に知らせている。その他、法人の在宅部門で年に1度家族にアンケートをお願いし、意見を集約し運営に活かした取り組みをしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所のみならず、法人の近隣にある関連事業が地域の中で認められ良好な関係が保たれている。町内の行事に参加したり、日常のゴミ出しからサロンの参加など自然な関係が作られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げて実践しているが、地域密着型サービスとしての理念は明記されていない。	○	理念の中に、地域の中でその人らしく暮らし続けていく言葉を盛り込んで、地域密着型サービスの基本姿勢を明記されることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、月に1度の会議の際に理念に添って実践しているか否か話し合い確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所のみならず、法人の関連事業が地域の中で良好な関係が保たれ、町内の行事に参加したり、日常のゴミだしから、サロンの出席など自然な関係が作られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で今回の自己評価に取り組み、話し合いを重ねて課題を共有し継続して検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に町内会の役員が出席し、地域の催し物の情報を頂き、利用者が地域へ外出する機会が増え楽しみの場となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は行政と連携をとり、サービスの質の向上を目指して努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月に「ホーだより」を作成し、利用者の日常の様子や出来事などを家族に報告している。「たより」を発行しない月も分かるように知らせている。特に金銭出納は明細を明らかにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の在宅管理部門では、年に1度家族にアンケートをお願いし、意見の集約をして運営に活かしている。事業所内に意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内が平穏に落ち着いて生活できるように、職員の異動については特別の配慮をし利用者に影響がないようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育委員会があり、月に1度職員対象の研修会があり他事業所と合同で実施している。また、外部の研修にも参加の機会を設けて学びの共有の時間をとっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内でグループホームが18事業所あり、合同の行事が年に数回開催され、利用者の楽しみとなっている。管理者と職員は日常的に交流がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の構造が階段利用なので、本人と家族に理解を求め、納得のいく状況でサービスを開始している。話し合いを重ね、女性のみの雰囲気維持するように相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所では家族のように生活し、職員は利用者中心の姿勢で支援している。町内のサロンに自然なかたちで参加して楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の過去の生い立ちや性格など、センター方式により意向の把握に努め、本人らしい暮らしを支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、本人がより良く暮らせるよう職員全員で活発に意見交換をしている。面会時には家族と話し合い、ミーティングの内容や家族の意見などを介護計画に活かして作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員はカンファレンスノートに日々の暮らしの気づきを記載し、毎月話し合いの時間を設けて現状に即した介護計画を作成している。変化がない時は6ヶ月、その他は3ヶ月ごとに見直しをしている。急変の場合は即刻見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の外出支援をしている。例えば、糖尿病のため、毎日2回朝と夕方に近くの病院へインシュリン治療が必要な場合も、通院支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの馴染みの医師は隔週、看護師は毎週、事業所に来て利用者の健康状況を診断し、適切な医療の指示をしている。また、緊急時の対応にも応じる仕組みになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の契約時に、医療連携体制加算に関する補足書類として、重度化した場合における対応に係る指針を説明して了解を得ている。また、個々に必要に応じて話し合いをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所では利用者一人ひとりを尊厳し、プライドを大切に対応しプライバシーを損ねる事のないように配慮している。記録の取り扱いにも注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個別性を尊重し、職員優先でなく本人本位に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日3度の食事に重きをおき、食事が楽しみとなるように利用者が参加する食卓を演出し支援している。また、糖尿食に細かい配慮をし、数値を守るように取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各居室に浴室が設置されているが、事業所全体の浴室でゆったりと入浴が出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者と職員は全員女性で、事業所内の家事仕事で利用者が参加できる場所は出来る限り役割を持ったり、協力したりして暮らしを全員で支えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出を多くし、通院、買い物など個別に対応して外出する楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関は利用者の目線に入らないように内側にカーテンを設置し、鍵をかけない取り組みをしている。夜間は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急通報システムは法人の病院と消防に直結している。また、避難訓練は消防の協力を得ながら年1度開催している。しかし、地域の協力を得るまでに至っていない。	○	災害などの対策として、地域の協力が得られるような働きかけを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人が作成し、日頃は職員が調理してバランスの良い食事を提供している。介護度の高い利用者も自立して食べられるように、個別の対応に配慮が見られる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には円卓が2テーブルあって、それぞれ利用者は馴染みの居場所があり、ほとんどの時間、家族のように居間や食堂で過ごしている。隣室には、椅子やテーブルが配置され自由にくつろいだりできる場所が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には台所、トイレ、浴室(使用していない)押入れなど自立して生活できる設備があるが、ゆったりとしてプライバシーが守られ、各自馴染みのベッドやタンスなどを持ち込み落ち着いた居室になっている。		

※  は、重点項目。